

議員氏名：大沼 英樹

議案番号：議案第55号

案件名：令和8年度二宮町一般会計補正予算（第2号）

討論内容：

私は、議案第55号、一般会計補正予算の修正案、あとは、この原案ともに反対の立場で討論をさせていただきます。

厳しいという財政の見通しの中で、手数料、利用料、補助金の見直しということが説明をされました。しかし、財務課長の必ずしも町民負担になるとは限らないという説明です。現場の職員に、このような苦しい、理にかなわない説明を強いる現在の町の姿勢に私は強い憤りを感じます。

財政が厳しいなら、建設計画の場所の変更も含めて再検討しなければならない計画だということです。私が掲げる新庁舎の在り方は、もっと複合的に、町が発展するもくろみがしっかりと説明できる投資でなければならないと考えております。

ですから、私なら、古くなった二宮小学校体育館を含む町民会館跡地の駐車場部分に半額程度の20億円で、窓口庁舎の分庁舎課と観光協会、観光用の駅前トイレ、コミュニティスペース、小学生や一般向けの体育施設と防災時には避難所として機能し、貸し館などを配置した駅前の活性化構想を含めた、複合的かつ収益が得られ、未来に希望の持てる庁舎建設に変更をします。

見込み違いで増額する30メートルものくい打ち工事に、億単位の増額に、詳細資料が出されず、町民の血税を億単位で追加投入するにもかかわらず、その根拠となる詳細資料を提示しないのは、公務として明らかに不適切であり、ブラックボックス化していると感じております。

そして、新庁舎建設計画地では、埋蔵文化財が出土していると聞きはするものの、何が出ているのか、その歴史的文化遺産が郷土の宝として報告されることもなく、今回追加の予算が出されています。

古くから二宮町の大規模開発では、遺跡の出土が度々ありました。過去の町長は、出土品を貴重に扱い、文化、郷土愛の醸成のために、様々な機会をつくり、まちに役立ててきました。私も緑が丘二宮高校の建設前に土器などの出土品があり、建設計画は2年程度遅らされて、十分な時間を取った上で、社会科の授業の一環で発掘の体験をさせていただいております。

ですから、何度も言っておりますが、どうあっても前のめりに進めるのではなく、確実に進めることが必要なんです。今ここで立ち止まることが悪いという意見もあるかとは思いますが、でも、考えてみてください。今まで、少なからず私が見てきた8年間のまちの計画は、進んだり、止まったり、白紙になったりしています。

現町政では、能力不足が明らかです。無計画に進めて、将来の町民にツケを回すのではなく、今、勇気を持って一度立ち止まり、子どもたちの未来のために、正しい道へ軌道修正することこそが真の責任ある政治です。

改めて、子どもたちの一生に一度の学びの場を優先していただきたい。

そして、畦畔といわれる国有地取得について930万円、これを小さな金額だと思うなら、億という金額を頻繁に目にして、金銭感覚が麻痺している、町民目線から完全に離れてしまっており、改めるべきです。

私の不動産業経験からすれば、そもそも県から土地取得する際の契約に失敗があると感じており

ます。見込み違いから、このような不適切な行政事務、そこから発生した支出だと考えたら、検証することが必要だと思います。

そして、今回のこの修正を含んだ補正予算の関係の問題については、議員間でどういうことではなくて、二宮町行政の運営が不透明であり、最終的な説明責任の不存在によって生まれていることと私は理解しております。

我々議員は、町民の代表として、町政を監視する役割を託されております。その重責から考えれば、庁舎建設に関して、町民からの質問や面会にも応じない町長の姿勢は大問題です。私からの討論は以上とさせていただきます。